

鳥川ホタル保存会

調査団体名	鳥川ホタル保存会	団体代表者名	松田直人
設立年	1994(平成6)年	対応してくれた人の名前	松田直人、片岡喜幸、今泉清、松下昭
団体URL	http://www.oklab.ed.jp/tokkawa/		
活動拠点	ホタル学校(旧鳥川小学校)	調査員	清水雅子、井上崇也
取材日	2015年12月3日	レポート作成者	清水雅子

活動内容

- ・ホタルの保護・育成活動(クリーン活動、森林整備など)
- ・名水百選である鳥川ホタルの里湧水群の維持管理
- ・水の源を巡る「ホタルの里の山歩き登山道」の整備
- ・ホタルまつり、山歩きイベントなど啓発イベントの開催
- ・炭焼きクラブなど、様々な活動が派生している

キャッチフレーズ

「(旧)鳥川小学校がある限り、コミュニティは永遠に不滅です!!!」

会のモットー(何を大切にしているか)

- ・地元の人たちの気持ちをくみ取って活動している。
- ・よそから来てくれた人を大切にする。
- ・自分たちのことは自分たちでやる!

設立から現在に至るまで変化したこと

- ・以前からホタルの保護活動をしていた鳥川小学校と共に、平成6年に鳥川ホタル保存会が発足。会には、鳥川地区の全57戸が参加している。
- ・その後、昔、使っていた山道を登山道として整備したり、ホタル祭りを行ったりと、活動が広がっている。
- ・鳥川小学校は閉校してしまっただが、校舎は岡崎市の「ホタル学校」という施設になり、共に活動を行っている。
- ・やはり若い人は外に働きに出ていってしまっているが、町内の世帯数はあまり減っていないのが幸い。

連携している団体・専門家・自治体など

- ・平成22年3月に鳥川小学校が閉校したが、24年4月には校舎が岡崎市の「ホタル学校」となり、活動も岡崎市役所と連携して行っている。
- ・水守森(みまもり)支援隊、里山ハイキングの会等の方が、ボランティアで登山道整備や看板作り・設置をしてくれている。
- ・ホタル学校のホタルサポーターの方も、行事にお手伝いに来てくれる。
- ・今年のホタルまつりには、光ヶ丘女子高等学校合唱部の皆さんに来ていただいて歌を披露してもらった。

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

- ・登山道整備を行い、道案内の看板も木で作ったりして、登山客に山歩きを楽しんでもらう。
- ・間伐を進め、森林の手入れを行っている。
- ・炭焼きクラブで、森林資源の活用もはかっている。

現在直面している課題

- ・登山道の整備など人手が足りないことがある。
- ・林業が衰退した今は、山が荒れていて、川の水量も減ってきているし、大雨の時に土砂が流れて川が埋まってしまう。山に入って、山の手入れをしていかないといけない。
- ・活動の中心は60~70代の高齢者であるため、次世代への引継ぎを上手くしていかなくてはならない。(今の50代が定年になれば、やってくれると期待はしている)

今後やってみたいこと

- ・新たな山歩きコースを作りたい。
- ・山の手入れを進めていきたい。
- ・これからも楽しみながらやっていければいいと思う。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

- ・山の手入れをするにしても、全体的に取り組んでいかないといけない。みんなで足並みを揃えて進んでいかないと。
- ・地籍調査を(行政に)行って欲しい。山の境界がわからなくなってきているため、山の手入れも進みづらい。

チームオリジナルの質問

<質問内容> どうして鳥川小学校の活動に、地域で参加することになったのか？

<答え>

- ・昔は時期になるとホタルがいたところで乱舞していたが、昭和30年代から40年代後半にかけてすっかり少なくなってしまった。また、魚も少なくなってしまった。水質汚染や農薬の影響もあったのだろう。
- ・鳥川小学校が昭和の時代からホタル保護活動を実施していたが、平成元年ごろから学芸会で発表するようになった。ホタルも少しずつ増えてきたので、小学校で子どもたちが頑張っているから地域あげて参加しよう、ということで、平成6年に会が結成された。
- ・鳥川小学校が地域の拠点となっていたので、自然とそういう流れになっていったと思う。

チームオリジナルの質問

<質問内容> 地区の全戸が会員になっているとのことだが、活動に対して反対意見はないのか？

<答え> 意見は様々あるが、「反対」意見はない。会費も皆がちゃんと支払ってくれている。

チームオリジナルの質問

<質問内容> なぜ登山道の整備をすることになったのか？

<答え> ホタルの命は水であり、水は山から生まれるもの。だから、山歩きをとおして自然の大切さ、森林の大切さを感じてもらいたい。

その他、伝えたいこと

- ・鳥川地区の人は、自分たちのことは自分たちでやる、という気持ちが昔から強かった。洪水で川にかかる橋が流されると、皆で山の木を切って橋を架けたりしたものだ。
- ・山に囲まれた集落に学校が1つだけだったこともあったのか、学校行事のときは地域で参加し盛り上がった。今は学校がなくなってしまったが、「ホタル」の保護活動をとおして地域を連携させていきたい。
- ・平成20年に環境省の名水百選になった湧水など、鳥川の素晴らしい自然を多くの方々に触れて楽しんでもらいたい。
- ・市が閉校した小学校を「ホタル学校」として再スタートさせてくれた。大変素晴らしいことで、是非、多くの皆さん方に来て、学んでいただきたい。

取材者からひとこと

- ・こんなにコミュニティがしっかりした地域が、こんなに身近にあることを、取材するまで知りませんでした。
- ・以前に石徹白に取材に行ったときと同じような、とっても暖かい気持ちになりました。
- ・鳥川地区が素敵な地域であり続けていくこと、また、それを楽しみながら支えるヨソ者が集まることを、願うばかりです。

写真



取材に応じていただいた鳥川ホタル保存会の皆さんと、取材者の2人



ホタルの餌となるカワニナの養殖



一つ一つ手作りされた登山道の案内板



登山道の入り口